

『自然ふれあい講座』をおこないました

本年度の「自然ふれあい講座」第1～4回の様子をお知らせします。

第1回 ニセアカシア林をドングリの林に転換できるか 参加者 9名

5月23日(日) 9:30～12:00 担当:前河 正昭・大塚 孝一
場所:牛伏川(松本市)



雨の中、現地での観察と説明

主な内容

- ◎牛伏川のニセアカシア林の林相転換事業の概要について解説し、事業地、試験地、斜面崩壊地跡のシカ・カモシカによる土なめ場、フランス式階段工を観察しました。
- ◎植栽した広葉樹がニホンジカに食べられやすいことや、昨年度からは事業地の一部でニセアカシアの「巻き枯らし」が行われていることも学びました。

第2回 残雪ウォッチング～温暖化の影響は?!～ 参加者 10名

6月6日(日) 10:00～12:00 担当:浜田 崇・富樫 均・陸 斉
場所:県山岳総合センター(大町市)



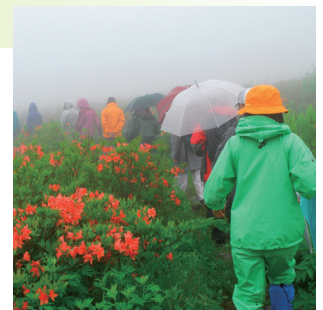
北アルプスの残雪を眺める

主な内容

- ◎当日は晴天に恵まれて北アルプスの眺望は最高でした。有名な雪形を探したり、それぞれが自由に「マイ雪形」を見立てたりして楽しみました。
- ◎残雪は世界的にはまれであることや、北アルプスには雪形が多数あること、雪形と伝承との関わりについて解説しました。また、残雪ができるメカニズムを地形と気候の条件から説明をし、残雪の変化を利用した自然環境保全の例や、残雪を活用した地球温暖化モニタリングの可能性について話をしました。

第3回 シカが霧ヶ峰高原の自然を変える 参加者 16名

6月26日(土) 10:00～15:00 担当:尾関 雅章・岸元 良輔
場所:霧ヶ峰高原(諏訪市)



レンゲツツジが咲く草原を歩く

主な内容

- ◎当日は雨の中、霧ヶ峰高原で現在発生している、シカによるニッコウキスゲの被食などの状況を、全員で2時間ほど野外を歩きながら観察しました。
- ◎午後は自然保護センター内で、霧ヶ峰高原でのシカによる植生への影響調査の結果と、シカが最近、急に増加してきた原因などについて解説をしました。シカに関する参加者の関心は高く、シカの生態や今後の対策などについて意見や質問が多数出されました。

第4回 ライチョウは生き残れるか 参加者 39名

7月11日(日) 9:00～12:00 担当:堀田 昌伸
場所:乗鞍岳(松本市安曇)

共催:信州野鳥の会



雪が残る乗鞍岳を散策

主な内容

- ◎シャトルバスで乗鞍高原観光センターから乗鞍岳畳平に行き、畳平から肩の小屋まで登山道をゆっくりと散策しました。当日は雨模様で、残念ながらライチョウを見ることはできませんでしたが、イワヒバリやカヤクグリなど高山帯に生息する野鳥や高山植物などを観察しました。
- ◎講座の中では、ライチョウの現状や生態について説明し、みなさんから意見をいただいたりしました。また、途中で、ライチョウの研究をされている信州大学の中村浩志教授とお会いし、詳しい話をお聞きすることができました。

☆ 参加方法・問い合わせ

本年度は、年12回の自然ふれあい講座を予定しています。参加の申し込み、お問い合わせは、環境保全研究所飯綱庁舎までお気軽にどうぞ。(電話:026-239-1031 Eメール kanken@pref.nagano.lg.jp)